

熊野古道伊勢路

第8回 三重県紀北町

「きは鬼か神の意か」

10月上旬、台風18号が日本各地に被害の爪痕を残し、心配されたが、10日の計画にはぎりぎり晴天になり、胸をなでおろした。この時もニュースでは尾鷲、熊野灘情報は実によく出てくる。実際にこの台風だけで500mlとか、年間雨量3000mlというから驚く。(屋久島で4千ml)これだけの土地柄なのに、先人の知恵があるのか、大きな被害は聞かない。住民の全国最高平均年齢と言われた紀北町だったが、熊野市合併で最高ではなくなっても、バス1台でも通り過ぎるのに片や山肌を、他方海側のガードレールに当たらんかとする山道の奥の村の存在は変わりはない。

意味で、伊勢と熊野大社のほぼ中間に位置している。ほぼ全区間に苦むした石畳が通じていて、平安時代から熊野詣でをした面影を留めている。現在なら海辺に沿った国道辺りを歩けば良いのと思うが、当時は山の裾野がまで迫って居て、山中の峠を越えねばならなかったのだから。この峠を越える最中に命を落とした人も多かったらしく、巡礼者の碑が立ち並ぶ。太平洋につながる海岸近くにはクリシタン燈籠もあるが、外国船や外国人も流れついたのであろう。



鬼の子母神と同じ神と見た像

今回の語り部の説は熊野に、き、と名の付く地名が多いと云う。今まで私達を通ってきた中にも女鬼山、八鬼山、三木峠、二木島峠、これからの鬼ヶ城……がある。それは山賊・海賊が良く出没したことで、鬼に例えたという説もあるが、この語り部は、き、は、鬼、に通じ、悪者ばかりでなく神として成敗してくれる敬いを試みた。

気持ちがあつたのではないかとされる。確かに鬼子母神は子どもを守る神で、ヨーロッパの各地の噴水の真中に立つ日本の鬼の子母神と同じ神と見た像

事がある。今年の夏も岡山で鬼の伝説を持つお祭りがあり、鬼を愛する関係者が集まったそうだ。海と山の絶景を見ながら、語り部の言葉に心地よく耳を傾ける1日であった。 S・U

【国史跡「竹田城跡」】  
【但馬にそびえる  
天空の城】

台風18号が接近する今週金曜日の夜、兵庫県但馬の和田山めがけて出発した。予報では日曜日以降に近畿に接近すること、4日(土)は晴れると予想はしていた。播但線竹田駅前ホテルに11時頃到着、翌朝4時起床。「雲海の上に浮かぶ天空の城」を見ようと試みた。

朝来市経済部観光交流課では、9月11日～11月30日までの竹田城跡雲海シーズンは一般車の乗り入れ禁止です。和天山、イオン和天山、山城の郷間は「雲海バス」を午前4時から運航している。まだ真つ暗のバス停留所には夜通しツリーリングしてきた若いカップルなど大勢の乗客でにぎわっていた。バスは約15～20分で山城の郷につき、其処から徒歩で登山となります。片道2kmあまりで城跡に着きますが、往復したあと歩数計は15,550歩をさしていました。時間的には、午前4時20分の雲海バスに乗って、4時45分にバス停留所に

き、5時20分には城跡に到着、入山料300円を払って散策しました。山城の郷へ帰還したのは午前7時20分頃でした。約3時間の朝の散歩でした。



かえすがえすも残念なのは、雲海と日の出を拝見できなかったことでした。【黒川温泉】

朝来市生野町黒川にある温泉は溪谷の緑に包まれ豊かな自然と柔らかな天然温泉で秘湯「美人の湯」とよばれている。泉質はアルカリ性単純温泉であらゆる疾病に効くといわれています。また、関西電力黒川ダムは一周20km、ダムの高さ98mで多々良ダムとの落差で約130万kwの水力発電(地下発電装置)用ダムとして稼働している。温泉の食堂では「ぼたん鍋」「生野町のご当地メニュー」はやしらいす「よもぎうどん定食」など楽しめませう。 T・N

葉にはまだ早かったものの、台風の雨風できれいに洗われ、緑色がことのほかきれいでした。黒田官兵衛ゆかりの、射楯兵主(いたてひょうず)神社を出発して京口門跡から中堀沿いに久長門跡、姫路市立美術館、千姫の小径、大手門、三の丸広場へと歩きました。まだ天守閣の中は工事が終わっていないので、場内には入れませんでした。見上げるお城はうわさどおりの白過ぎ城でした。屋根の白い漆喰が目立ち、瓦の色が消され、ほんとに真っ白と云っていい状態でした。でも台風一過の真つ青な空の色にいちだんと映えてとてもきれい。この漆喰の白さは年々汚れて灰色になり屋根の色とマッチするようになります。真つ白な天守閣を見られるのは数年だとか、白鷺城の白過ぎさを見るのは今のうちかも。

